花芽分化を促進させ、花を咲かせ、実を収穫するための5つの管理ポイント

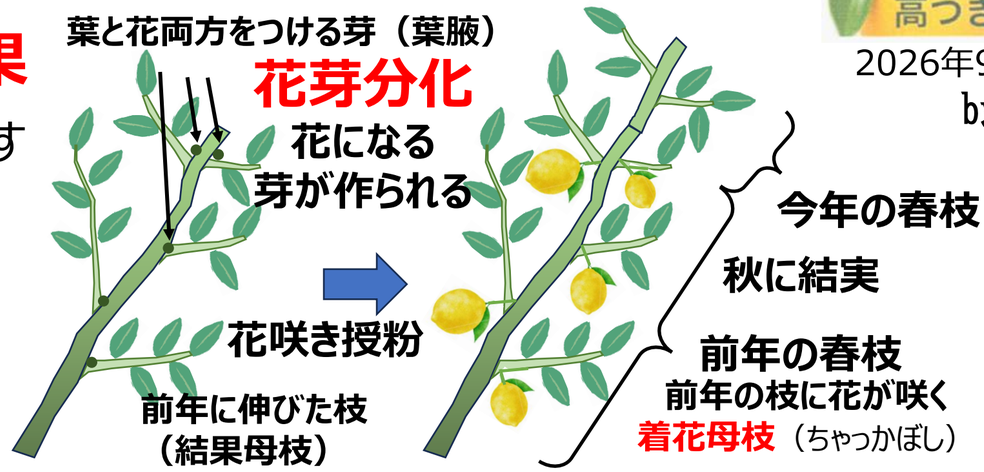
高つきレモン

2026年9月16日

by 栗山

①剪定、誘引　②肥料　③水分　④低温　⑤摘果

1. **花芽分化時期**：日当たり良いと**レモンは四季咲き性**で何度も花が咲かす
   - **春の分化期が重要：秋～冬（9月～11月）に花芽分化が進み**、冬～春に花芽が発達して、春に開花する
   - 夏と秋の分化期　：夏・秋にも開花するが、春～初夏の花に比べて結実が安定しにくい
2. **花芽ができる枝：充実した新しい枝の先端・葉腋付近**



剪定・誘引 **春枝・夏芽・秋芽**	3～4月：新芽が動く前に**混み合い枝・徒長枝などを剪定**。注意点は**花芽のある先端をむやみに切らない**。 5～10月：必要な枝だけ**横方向へ誘引**。強い直立枝は樹形を見て剪定。樹形は**開心自然形にする**、主幹低く、主枝3本広げる **春枝：最優先で充実させ、冬までに花芽分化のエネルギーを蓄える。** **夏芽・秋芽：不要なものは早めに芽かき・剪定**し、**栄養を春枝に集中**。ただし幼木は樹冠づくりのため**必要な枝葉を残す**。
肥料	**3・6・9・11月**：基本はバランスのよい柑橘用肥料を基準に、樹齢・樹勢・土壌に合わせて量を調整。 肥料を与え、**枝にエネルギーを蓄積させ太らせ**、花芽分化を起こす準備をする。栄養過多で窒素分が多すぎても、枝葉ばかり。
水分ストレス	夏は不足させない。**秋～冬は土壌状態と降雨を見て徐々に減らす**。地植えは冬場の水やりは雨にまかせ、時々水をやる。 **冬場の土を乾燥気味**にして花芽分化に誘導します。ただし、長期間の強い乾燥は避ける。
低温ストレス	**冬の10～15℃前後の低温条件で花芽誘導が促進**されることが確認されています。最低気温-3度まで耐えられる常緑樹。 0℃以下や霜・凍結は低温障害の危険があるため、防寒を優先する。特に強い冷え込みが予想される場合は、寒冷対策を行う。
摘果 **隔年結果の対策**	**実を付け過ぎない**、**実の数は25枚の葉につき1個。**着果過多の年は**摘果で負担を減らし**、葉・枝・根の貯蔵養分を確保する。 レモンの木は隔年結果です、前年の枝に花が咲く着花母枝を大切にします。このため前年の過剰着果は翌年の開花を抑えやすい。

高つきレモン

2026年9月16日

by 栗山

CASE 1　幼木（1～3年生）

まだ木が細く、枝数と葉っぱが少ない



最優先：
葉を増やし、
枝と骨格を作る

樹冠づくりのために必要な夏芽・秋芽も残す
幼木では着果させ過ぎず、樹の生育を優先する

- 必要な夏芽・秋芽は残し、樹冠づくりに使う
- ヒョロヒョロと長く伸びすぎて垂れ下がる場合は
  先端だけ剪定（摘芯）
- 強すぎる徒長枝だけを間引き剪定し、切り過ぎない
- 花や実を残し過ぎて樹を消耗させない
  1株で３個程度の花を残す
- 冬場は土を乾燥気味にして
  子孫（花や実）を残させる花芽分化に誘導します

CASE 2　成木（4年生以降）

枝や葉がかなり生い茂っている





最優先：
春枝・葉を確保し、
着果量を調整

- 春枝を結果に利用できる重要な枝として残す
- 不要な夏芽・秋芽・徒長枝・内向枝・交差枝を剪定
- 強い直立枝は横方向へ誘引し、光と風を確保する
- **前年の着果過多を避け、翌年の開花を安定させる**

